

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 29 年 7 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 29 年 4 月～6 月期の実績および平成 29 年 7 月～9 月期の見通し
について調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	17 社	56.7%
水産業部会	30 社	14 社	46.7%
機械工業部会	30 社	12 社	40.0%
建設業部会	30 社	18 社	60.0%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	22 社	73.3%
合 計	150 社	83 件	55.3%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

― 業況は回復傾向。次期も更に回復の見込み ―

1. 全体の動き（業況）

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期（平成 29 年 4 月～6 月）の全業種平均 DI 値**（「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差）は、**前年同期比では▲15.6**と前回調査時の▲18.4より**2.8ポイント改善した**という結果になりました。

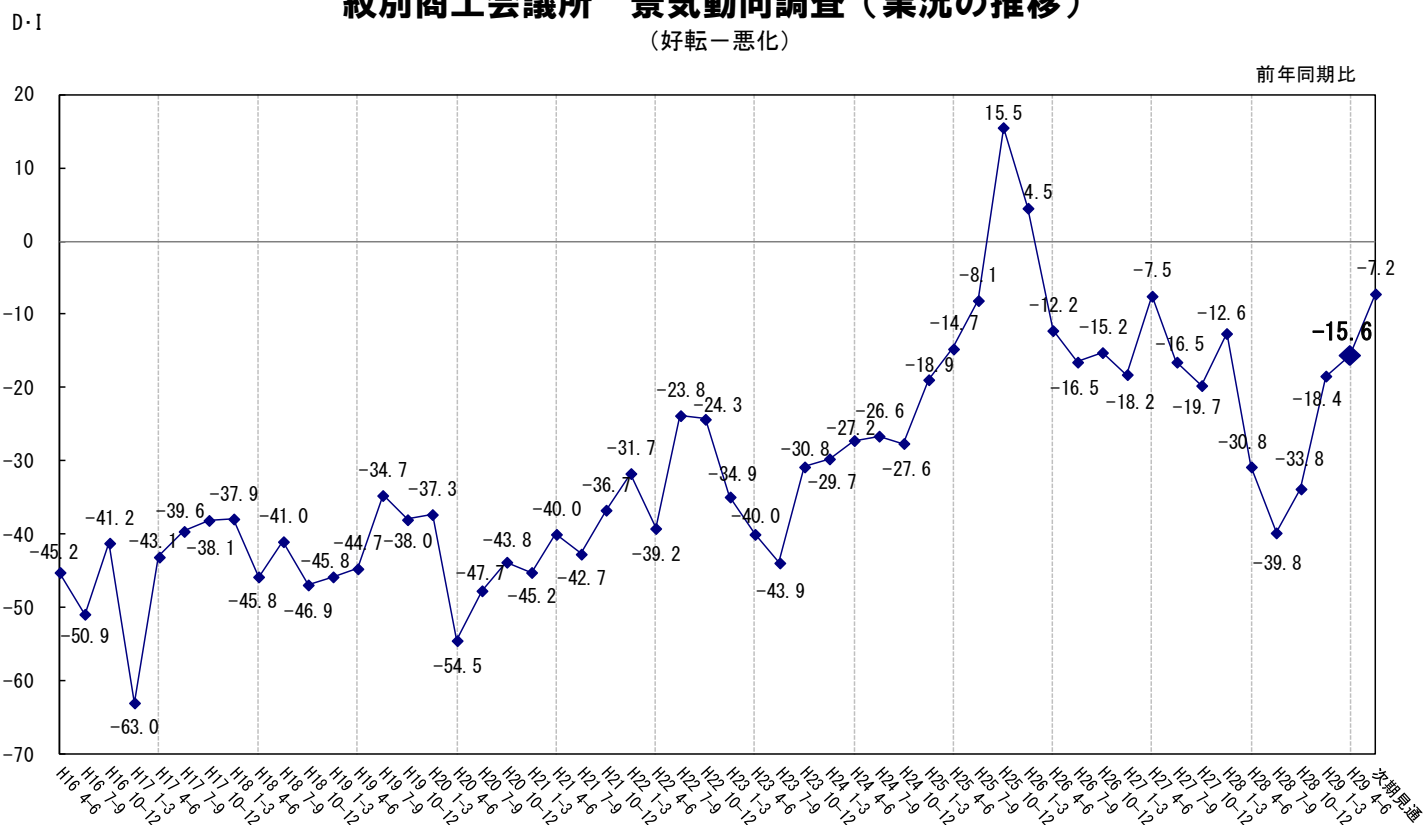
部会別に前年同期（平成 28 年第 1 四半期）と比較すると、商業・食品業 [前年 DI 値▲20.0→今期▲17.6]、水産業 [前年 DI 値▲36.8→今期▲35.7]、機械工業 [前年 DI 値▲13.3→今期▲25.0]、建設業 [前年 DI 値▲40.9→今期▲11.1]、観光・サービス・諸業 [前年 DI 値▲35.0→今期 0.0] となりました。

機械工業以外の全ての業種は好転となり、特に、建設業と観光サービス業・諸業の回復幅が大きくなりました。前年同期とほぼ変わらない業況を示す回答が多くなり、悪化を示す回答が減少したことが好転した要因と考えられます。観光サービス業・諸業に一部悪化との回答もありましたが、新生活に係る住宅やサービス業の利用増や、酪農業に対するサービス業でも利用が増加し、部会全体の業況を底上げしています。依然として水産資源の不足による原料価格の高騰、原料の確保難が叫ばれている中、スーパー等からは、離農などの理由から紋別市の野菜生産者が減少し、地元の新鮮な野菜を販売することが出来なくなってきたとの声も新たに寄せられております。

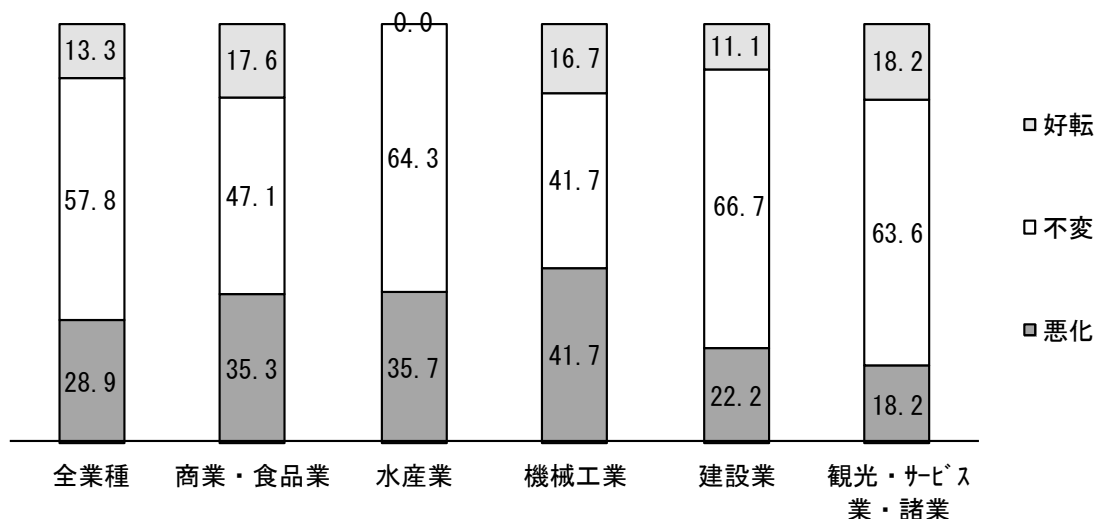
来期（平成 29 年 7 月～9 月）については、今期と比べて**業況判断 DI が 8.4ポイント改善**するとの予測となっています。最近の傾向では、事業の最盛期にもかかわらず、前年と比較して悪化している業種が多く、第 2 四半期は「悪化に転じる」との意見も一部に見られますが、機械工業、建設業が共に大きく好転の見通しとなっており、更なる好転へ期待が持たれます。

紋別商工会議所 景気動向調査（業況の推移）

（好転－悪化）



今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、全体的に依然として需要の停滞と仕入れ単価、原材料等の価格上昇を訴える声が多く、水産業は長引く原料不足と原材料単価の上昇に苦慮しているとの悲痛な声も寄せられている他、全業種通して従業員の確保難を訴えております。また、生産設備の老朽化も観光サービス業・諸業、水産業を中心に多くなってきています。

■部会別の動向

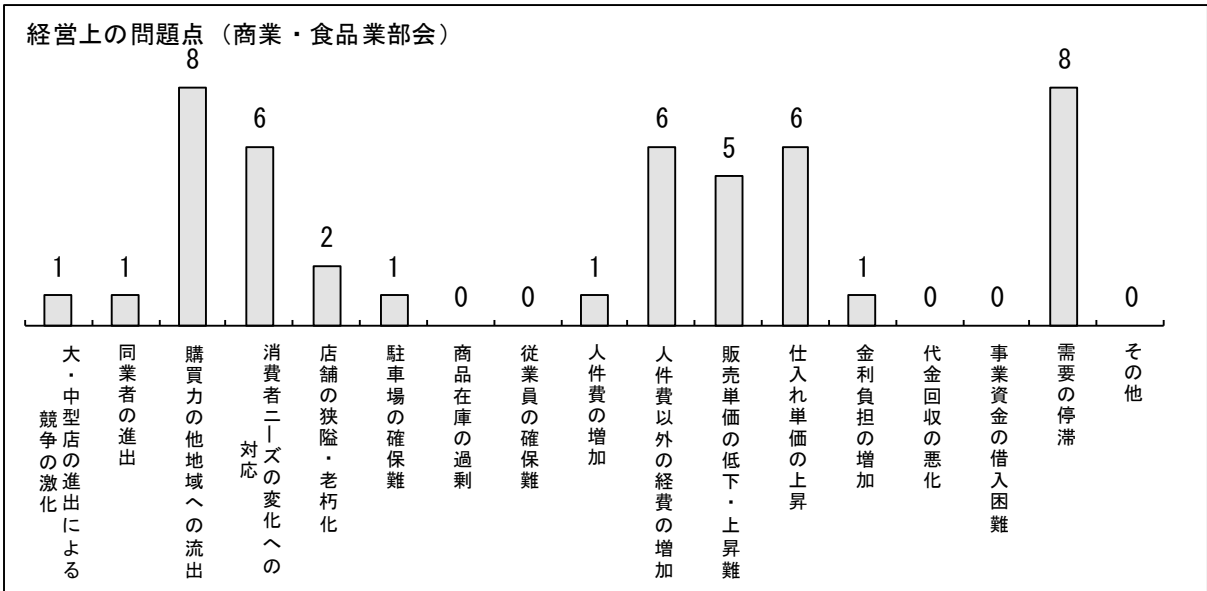
【商業・食品業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲17.6（前年 DI 値▲20.0、来期見通し▲17.6）〕

業況 DI 値（前年同期比）は、前年同期より 2.4 ポイントやや回復となりました。春の観光シーズンで、土産品やコンビニ、ガソリンを中心とした燃料販売店等で好転を示す値が見られています。しかしながら、インターネットの普及や大型店への顧客の流出により、生活に密着した小売店等からは、悪化の値を示す回答が多くなっており、次期は▲17.6 と今期と同値となっておりますが、夏の観光シーズン、またスポーツ合宿等で市内の流動人口が増加することから、商業にも好影響があるものと思われます。

経営上の問題点は「購買力の対地域への流出」「需要の停滞」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・小児の医療費がかからない為、小児用薬が全く売れなくなった。（病院に行ってしまう為）セルフ治療の意識欠如が深刻。（医薬品販売）
- ・客単価の低下（化粧品・生活雑貨小売）
- ・人口減少（スーパー・コンビニ）
- ・生産者の減少。特に野菜生産者。（スーパー・コンビニ）
- ・地元の野菜生産者が減り、地元の新鮮な野菜が市民の食卓へ上がらなくなってきている。（スーパー・コンビニ）



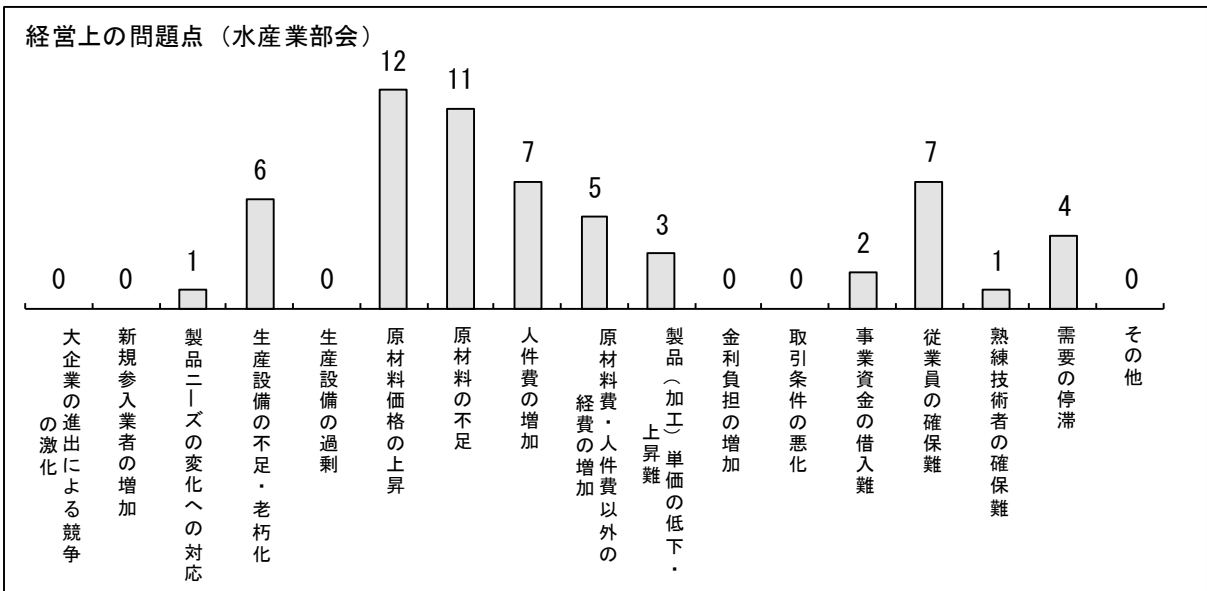
【水産業部会】〔業況判断DI値(前年同期比) ▲35.7 (前年DI値▲36.8、来期見通し▲35.7)〕

業況判断DI値(前年同期比)は、前年よりも1.1ポイント僅かに回復となりました。春の風物詩である毛がにも高値ながら順調な水揚げ海明けとなりましたが、主力である帆立は減産の為、加工業者への荷割は抑えられ、生育状況があまりよくない事から高値の割に歩留まりが悪く、加工業者からは苦慮しているのとの声も上がっております。また、温暖化の影響によって魚種も変わりつつあることから、加工や販売の面で新たな対応に迫られています。

経営上の問題点としては「原材料価格の上昇」「原材料の不足」を訴える声が目立ち出てきています。

《業界の問題点等》

- ・原料である帆立が少なくとも4月～11月末迄確保できるとありがたい。(水産加工)



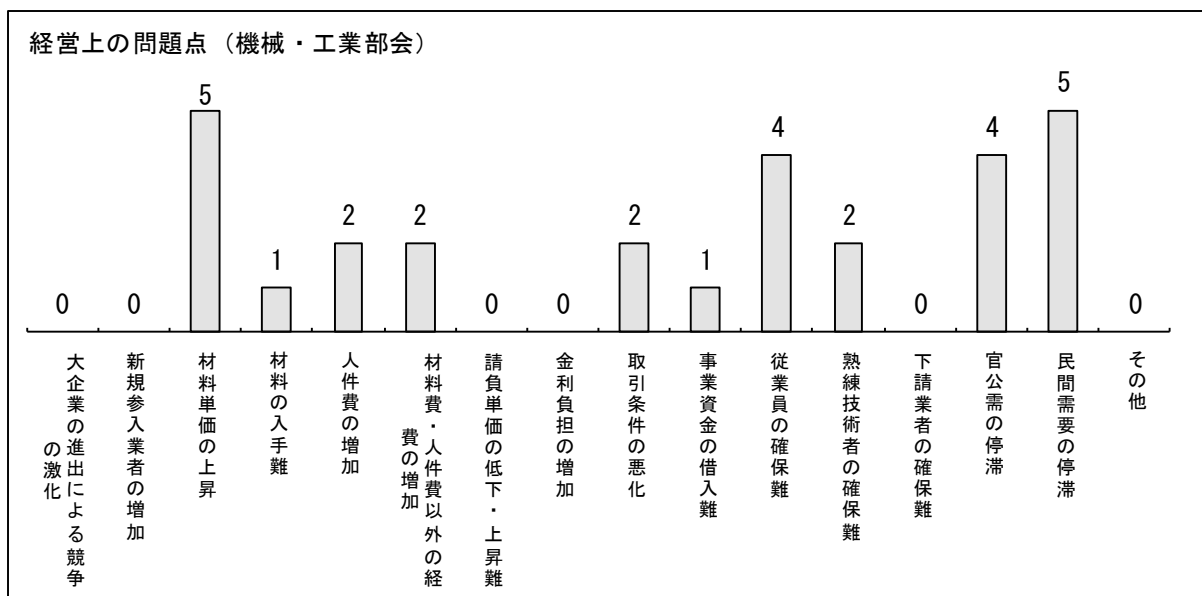
【機械・工業部会】〔業況判断DI値(前年同期比) ▲25.0 (前年DI値▲13.3、来期見通し8.3)〕

業況判断DI値(前年同期比)は、前年DI値と比べると11.7ポイントの悪化となりました。機械工業は他の業種の業況に影響される事が多く、今回の調査では製函や資材等の製造を行っている企業から悪化を示す回答が多くなり、水産業が原材料不足により鮮魚の出荷等が減少していることも要因となっております。また、民官公の需要が停滞していることに加え、材料単価が上昇、取引条件の悪化により利幅が圧縮となっております。

経営上の問題点は「材料単価の上昇」「民・官公需要の停滞」、「従業員の確保難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・人口減に比例し商社の数も体力も減少していることから市内の需要の減少は今後ますます顕著になってくると予想しております。また、ハローワーク、ネット、紙媒体を使い求人を出しておりますが人材が集まらず10名程度の欠員が出てきているところです。事業継続にも影響が出始めておりますので対策につきご教授いただければ幸いです。(印刷業)

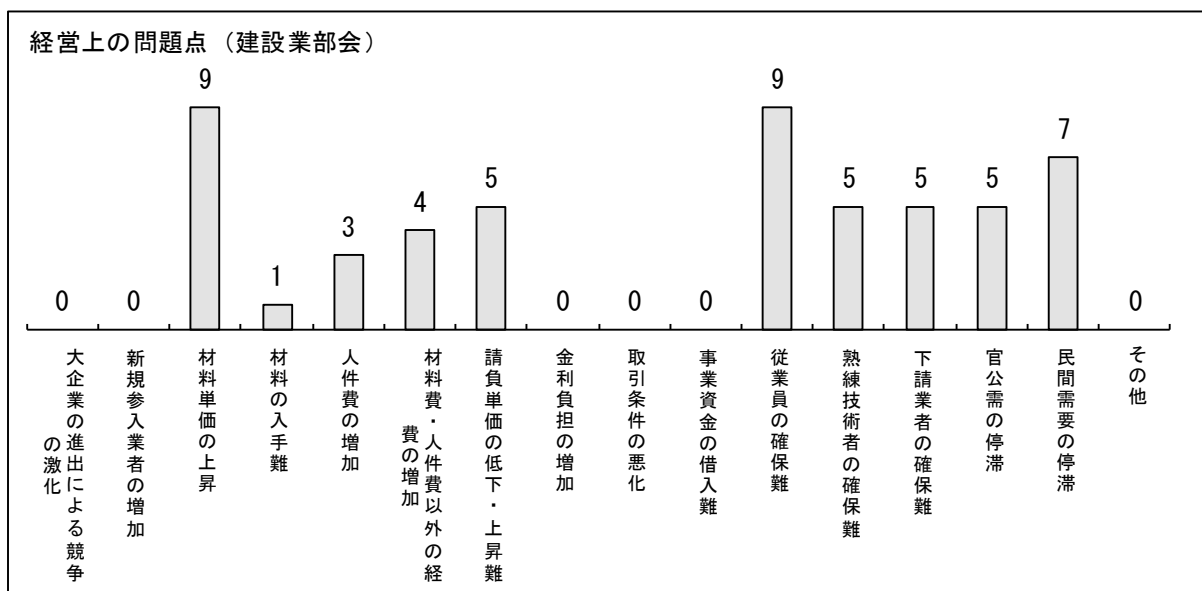


【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲11.1（前年DI値▲40.9、来期見通し11.1）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値から29.8ポイントと大幅な回復となりました。一昨年で大規模工事が一段落したことによる反動で業況が大きく悪化していましたが、4月に供用開始した給食センターや生涯学習センターの改築工事、まちなか市営住宅の新築工事が進み、市内の業者にも仕事が入っていることから回復に転じたものと思われます。しかしながら、天候や従業員の確保には苦慮しており、工期の遅れも懸念されております。来期は今期より更に回復する見通しとなっております。

経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「従業員の確保難」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》



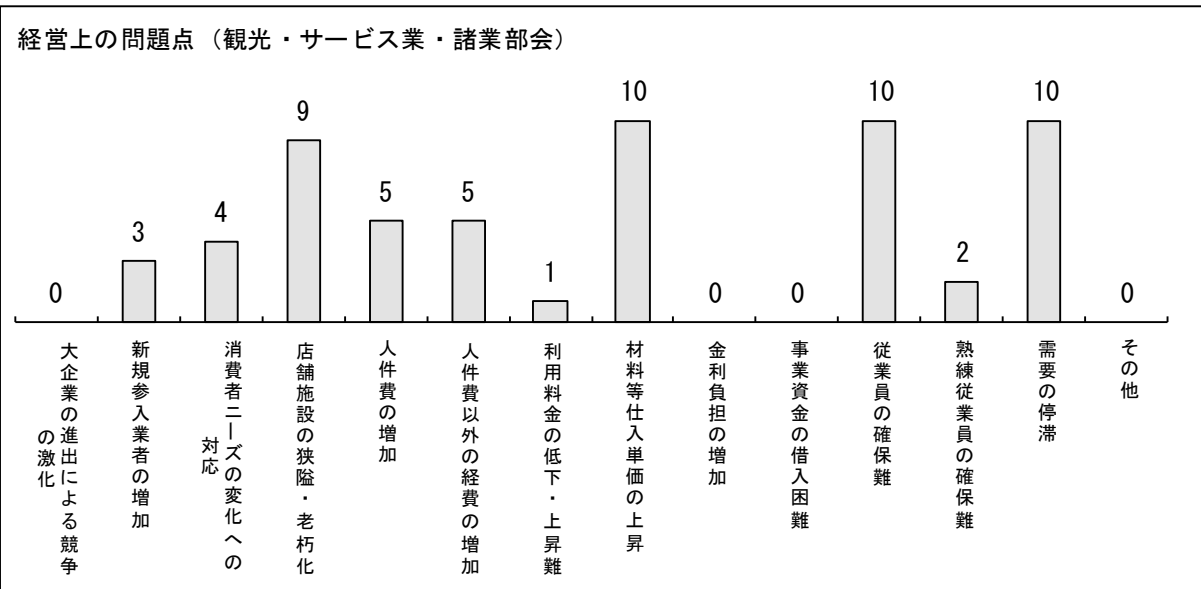
【観光サービス・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）0.0（前年DI値▲35.0、来期見通し▲4.5）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年DI値よりも35ポイントの大幅回復となりました。酪農業に対する新たなサービスで新規の顧客獲得で順調に推移している業種や、新生活のシーズンとなり、クリーニングや理美容業の需要が活発になっているとの好況な回答が寄せられておりますが、一方で市内には美容室が多く開業されており、古くからの顧客を抱えているところについては、高齢化の影響で客数の減少が心配されております。警備業では、市内工事の進捗に伴い、需要が高くなっていますが、人手不足に苦慮しているとの声が寄せられています。介護サービスについては依然として国からの収入が減少傾向にあり、苦慮しているとの声も寄せられております。来期見通しは▲4.5ポイントとやや悪化の予想となっております。

経営上の問題点としては、「材料等仕入れ単価の上昇」「従業員の確保難」「需要の停滞」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・人材不足。ハローワークへの求人に対して申し込みがほとんどない。経費は色々な面で上昇しているが、価格を頻繁に変えられず転嫁できない。（飲食業）
- ・営業職の確保が難しい（保険業）
- ・収入（国からの報酬）がどんどん減るが、人件費は多くしなければならない。（介護）



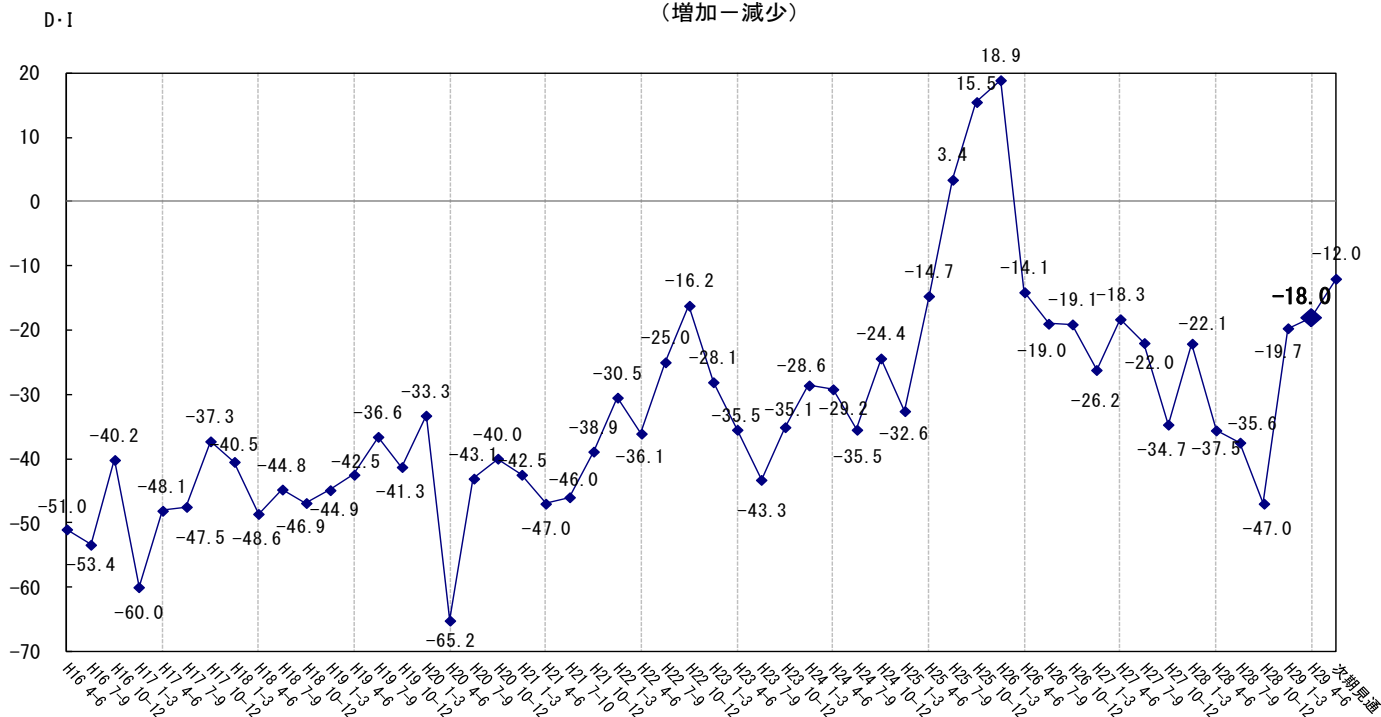
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

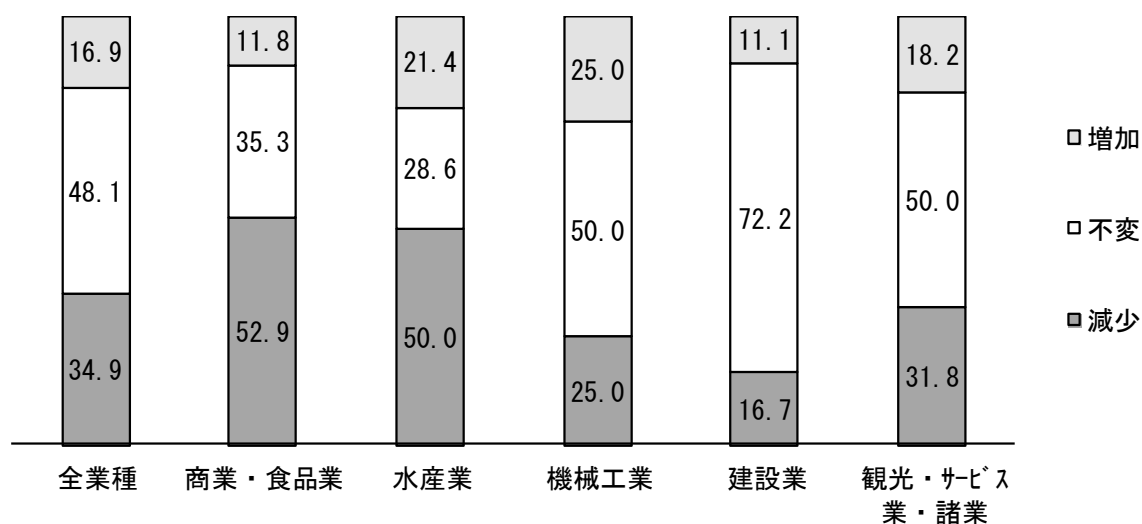
【前年同期比】（平成 28 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の売上高）

売上高・生産高推移（全業種平均 D・I）

（増加－減少）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均で DI 値▲18.0〔前年 DI 値（平成 28 年 4～6 月期▲35.6）より大きく増加〕

〔部会別 DI 値〕

商業・食品業〔前年▲33.3→▲41.2〕、水産業〔前年▲47.4→▲28.6〕
 機械工業〔前年▲20.0→0.0〕、建設業〔前年▲33.3→▲5.6〕
 観光・サービス業〔前年▲40.0→▲13.6〕

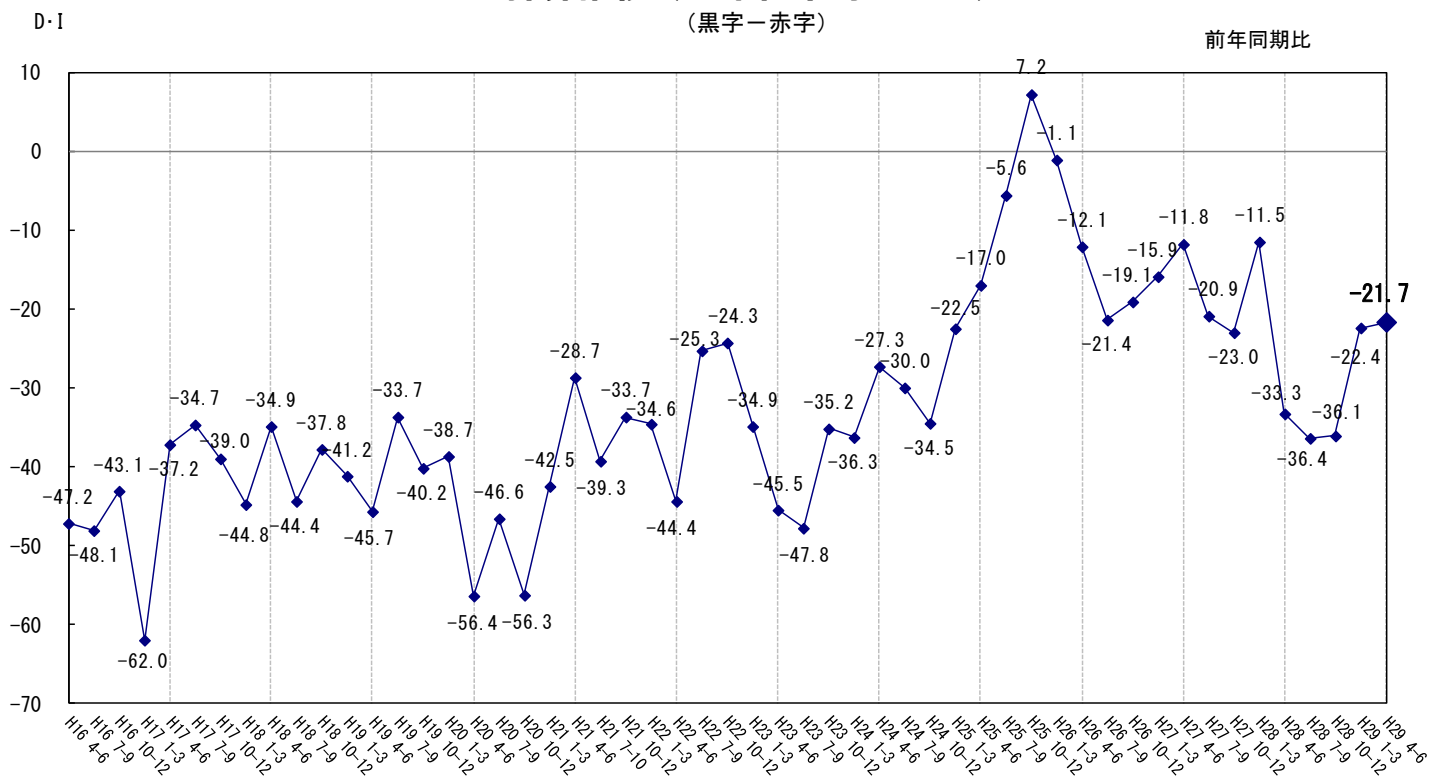
(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 28 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の採算水準）

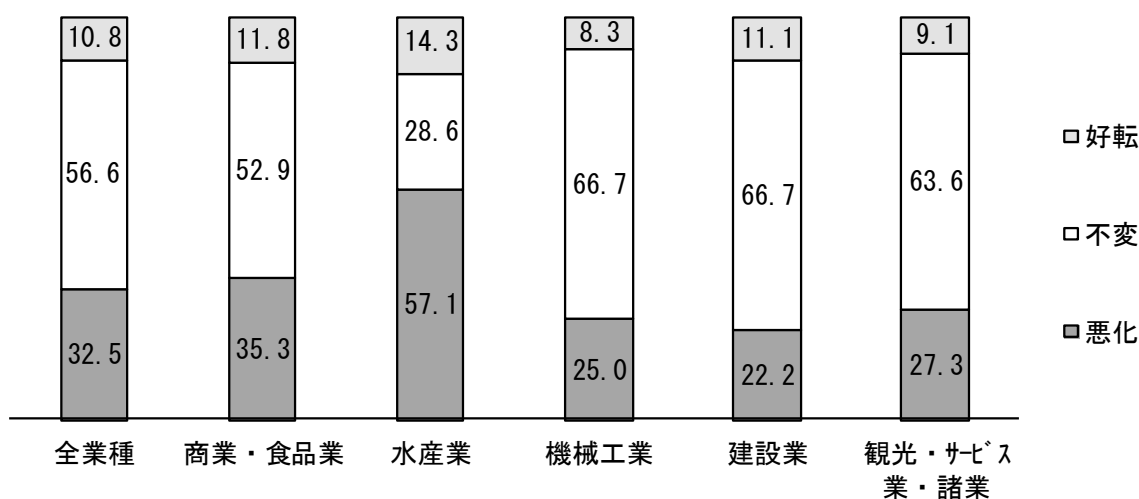
採算推移（全業種平均D・I）

（黒字－赤字）

前年同期比



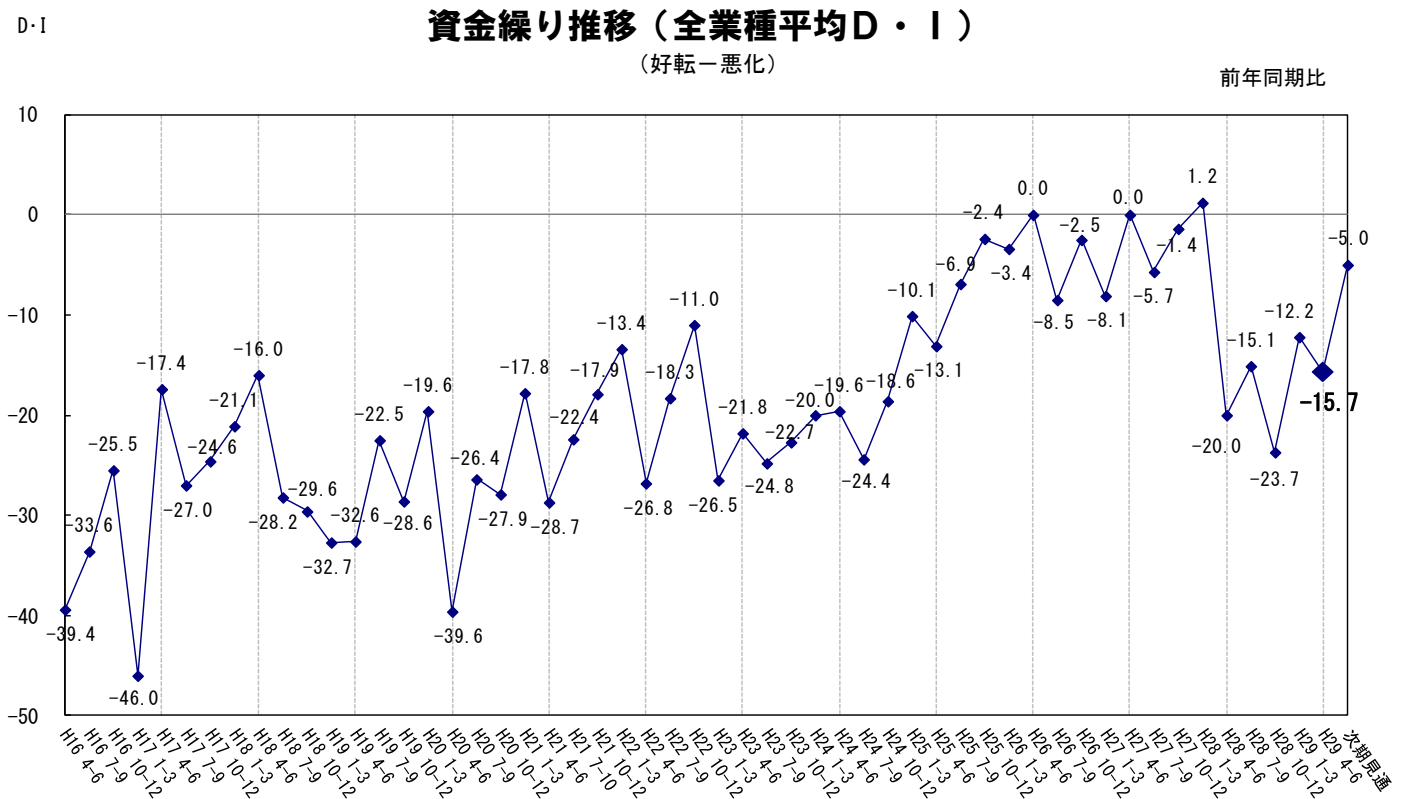
今期の採算（前年同期比）



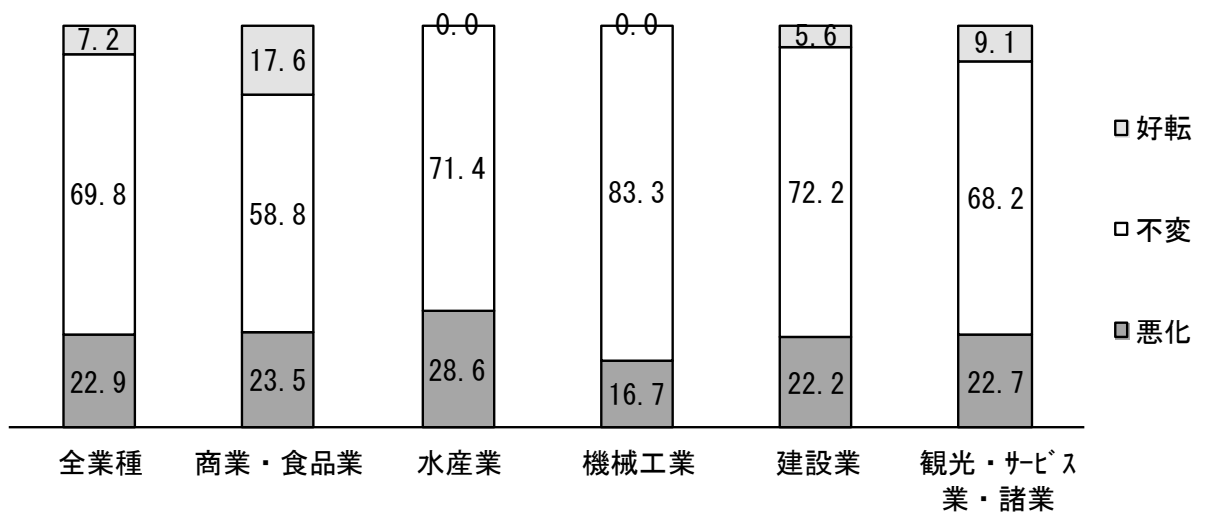
全業種平均でDI値▲21.7〔前年DI値（平成28年4～6月期▲33.3）より11.6ポイント好転〕
 [部会別DI値] 商業・食品業〔前年▲33.3→▲23.5〕、水産業〔前年▲47.4→▲42.9〕
 機械工業〔前年▲6.7→▲16.7〕、建設業〔前年▲42.9→▲11.1〕
 観光・サービス業〔前年▲30.0→▲18.2〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 28 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の資金繰り）



今期の資金繰り（前年同期比）

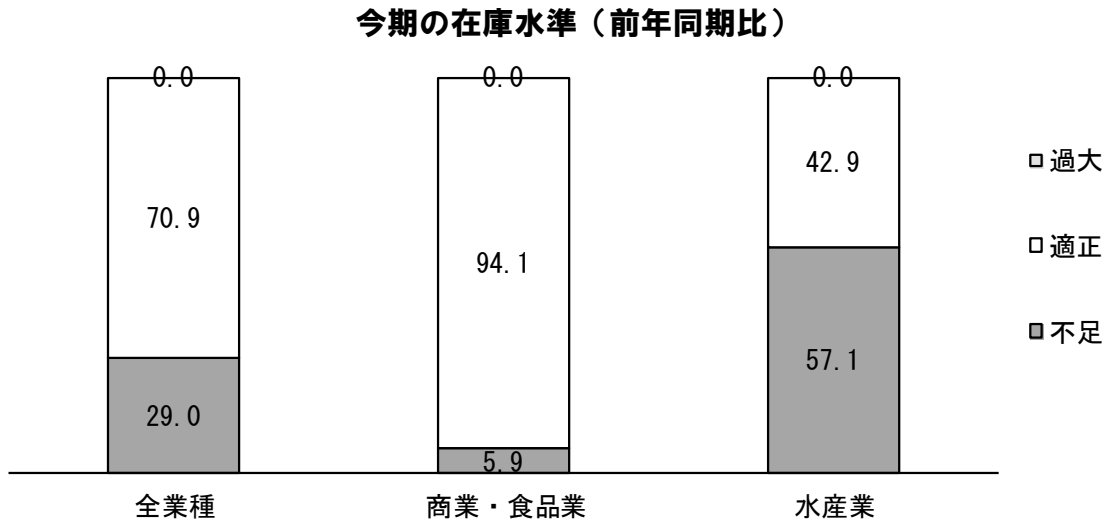


全業種平均でDI値▲15.7〔前年DI値（平成28年4～6月期▲20.0）より4.3ポイント好転〕

【部会別DI値】 商業・食品業〔前年0.0→▲5.9〕、水産業〔前年▲26.3→▲28.6〕
 機械工業〔前年▲20.0→▲16.7〕、建設業〔前年▲28.6→▲16.7〕
 観光・サービス業〔前年▲20.0→▲13.6〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 28 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

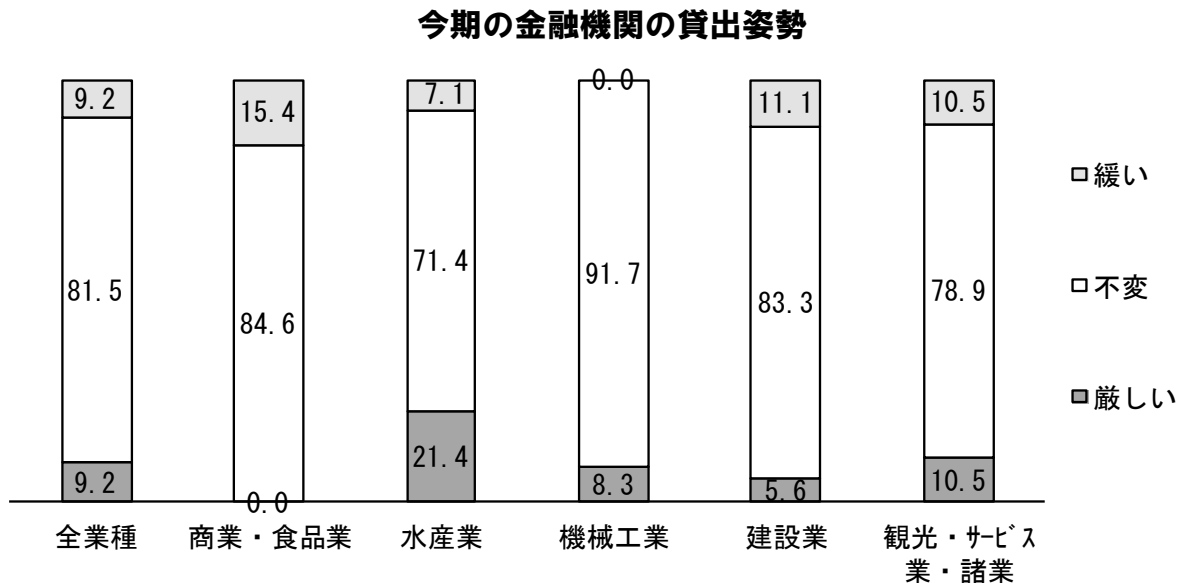


全業種平均で DI 値▲29.0〔前年 DI 値（平成 28 年 4～6 月期 0.0）より 29 ポイント不足〕

[部会別 DI 値] 商業・食品業〔前年 6.7→▲5.9〕、水産業〔前年▲5.3→▲57.1〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

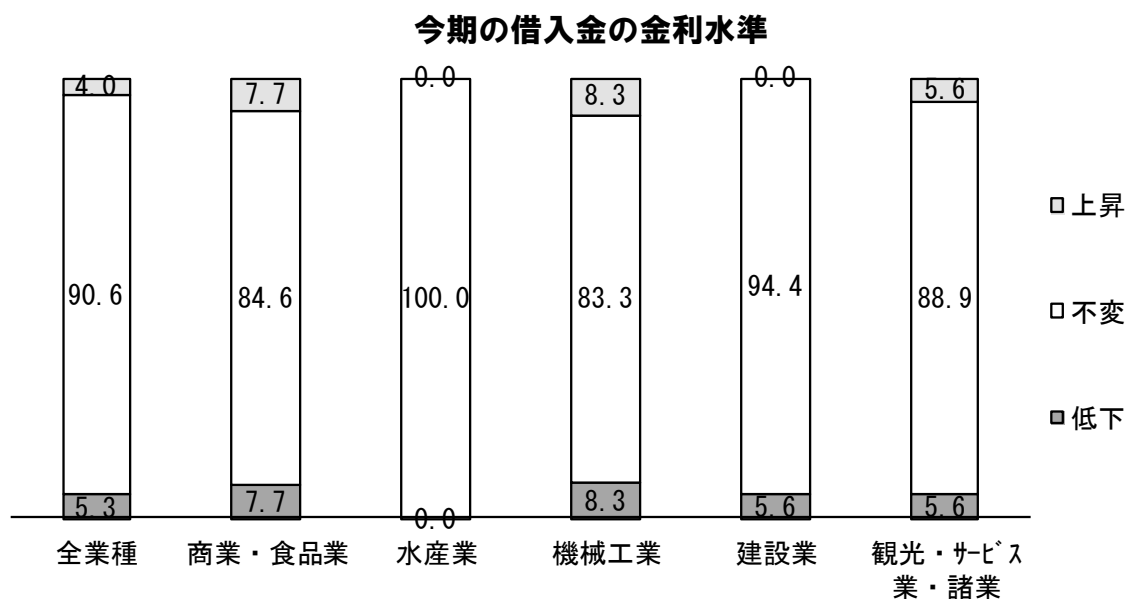
【前年同期比】（平成 28 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）



全業種平均 0.0 ポイント。商業食品業 15.4、水産業▲14.3、機械工業▲8.3、建設業 5.6、観光サービス業 0.0。

(6) 今期の借入金の金利水準

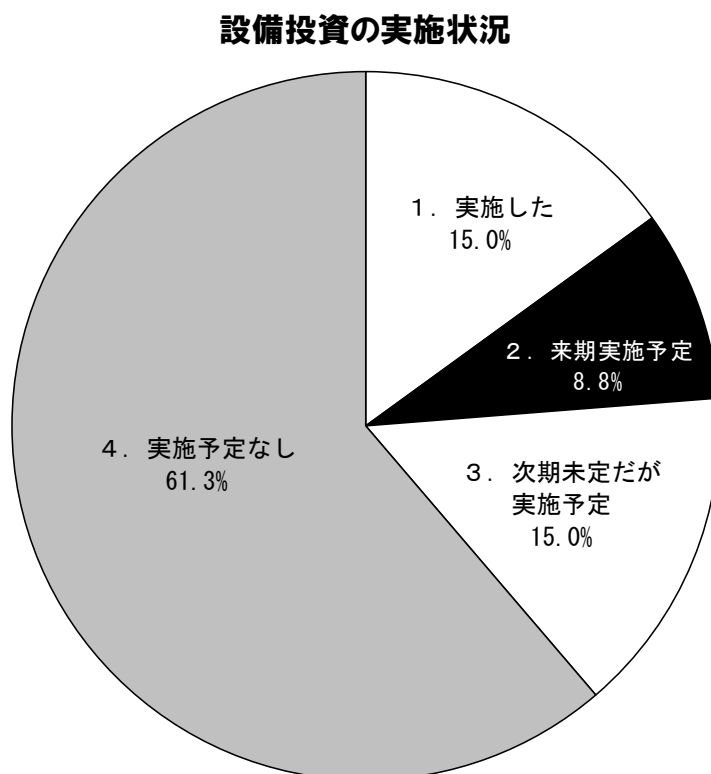
【前年同期比】（平成 28 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で▲1.3ポイント。商業食品業 0.0、水産業 0.0、機械工業 0.0、建設業▲5.6、観光サービス業 0.0。

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

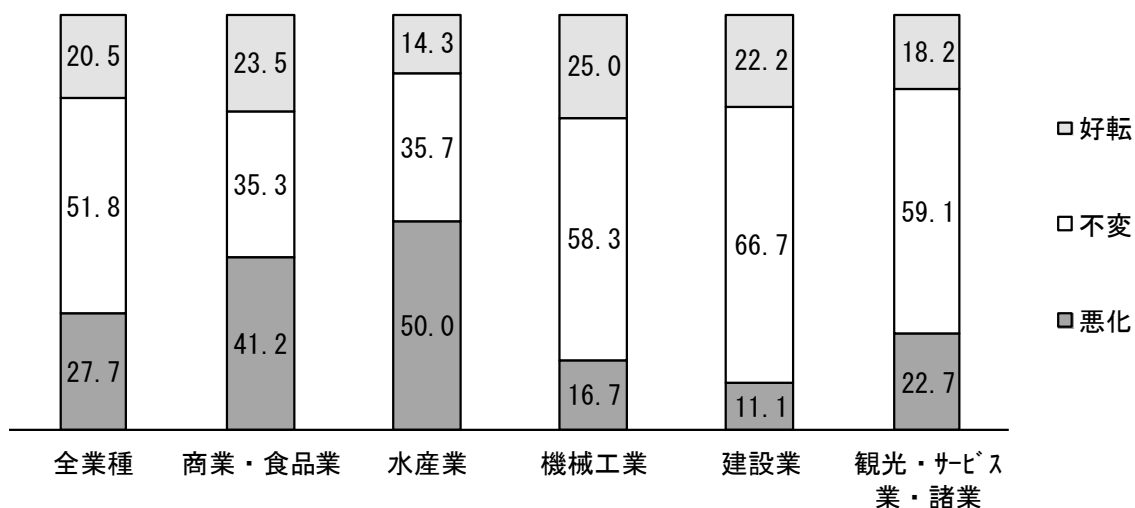


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（平成 29 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

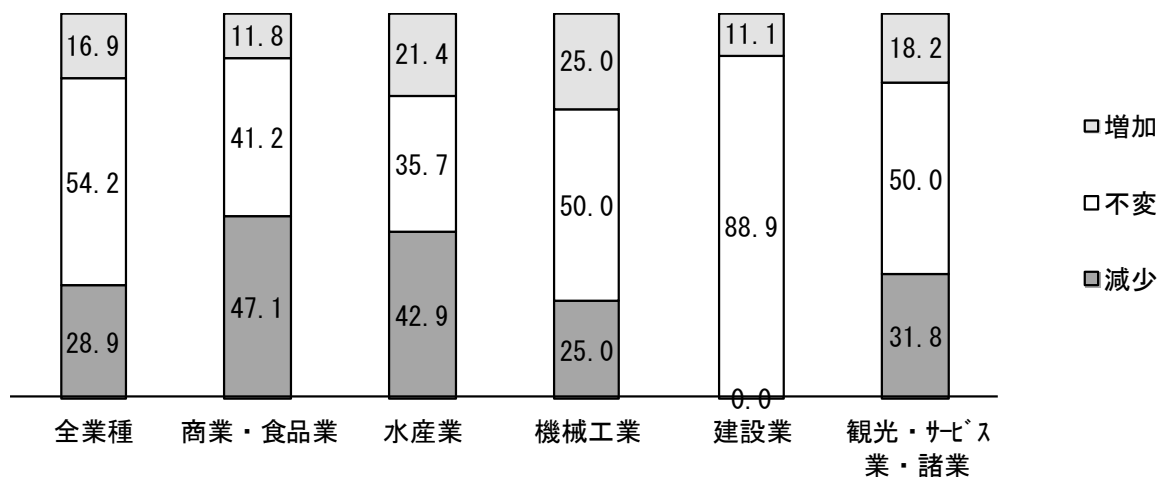


全業種平均 DI 値▲7.2 [今期の業況（前年同期比▲15.6）より 8.4 ポイント好転の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 29 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

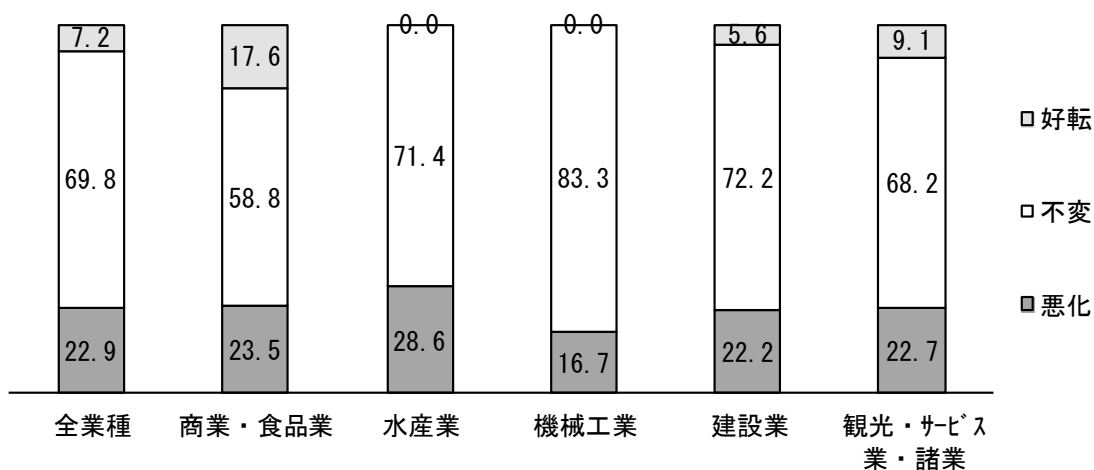


全業種平均 DI 値▲12.0 [今期の売上高・生産高（前年同期比▲18.0）より 6 ポイント増加の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 29 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

今期の資金繰り（前年同期比）



全業種平均 DI 値 ▲5.0 [今期の資金繰り（前年同期比▲15.7）より 10.7 ポイント好転の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲15.6	▲17.6	▲35.7	▲25.0	▲11.1	0.0
	来期見通し	▲7.2	▲17.6	▲35.7	8.3	11.1	▲4.5
売上高・ 生産高 D・I	今期実績	▲18.0	▲41.2	▲28.6	0.0	▲5.6	▲13.6
	来期見通し	▲12.0	▲35.3	▲21.4	0.0	11.1	▲13.6
在庫 D・I	今期実績	▲29.0	▲5.9	▲57.1	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲21.7	▲23.5	▲42.9	▲16.7	▲11.1	▲18.2
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲15.7	▲5.9	▲28.6	▲16.7	▲16.7	▲13.6
	来期見通し	▲5.0	▲17.6	▲14.3	▲16.7	0.0	0.0
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	0.0	15.4	▲14.3	▲8.3	5.6	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	▲1.3	0.0	0.0	0.0	▲5.6	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。